

次第に「少し」の手まね（即ち人差指の先僅か下に親指の指頭をつける）をして、徐々に親指の指頭を人差指の根元にずり下して行く。

自重 握り拳の両手を下腹部辺りに、たてに上下に重ね、そのまま上へ引上げる。押をしめること。「しっかりする」の手まねにもなる。

室 掌を内側にして五指の指頭を左にさした右手。これも掌を内側にして五指の指頭を右にさした左手。この両手をかなりの間隔を置いて平行に前後に並らべ二形をつくり次に両手の五指の指頭を前方にさし互に掌を向いわせて前と同じ位の間隔を置いて「」形をつくる。即ち一次二次の両手の姿態で□形を造るわけで、**室**、部屋の仕切り壁を表わす。

實際（実に） 「ほうとう」と同じ手まね。

「しっかり」「自重」と同じ手まね。

失業（失職） (f) 誰れもがするように、自分で自分の首を切る真似をして、両手をふらぶらさせる。(h) ルンベンの「ル」の指文字（親指と人差指、中指の三指で片仮名のルの形にした）の手をぐるぐる廻わす。

知っている 拳にした片手で胸を叩く。即ち、「胸にある」「胸におさまって知っている」こと。

嫉妬 人差指と中指の指頭で鼻頭の上を交互に打つ。更に両手の人差指で頭に角を表わしてもよい。

失望 「がっかり」と同じ手まね。

質問 「訊く」と同じ手まね。

してから（それから） 上向けた左手掌の上に、右手の掌を叩き降して未来の手まね。即ち右手の掌を前方へ押し出す。左手の掌の上に右手の掌を叩き降すのは「事」の完

了。

失恋 「恋」の巾の手まねをして、そのハ
ート形をつけた左側に、右手の人差指を突き
刺す。

支店 店——支部

自転車 両手で枝ハンドルを操作する身振
をして、指を前方にさし掌を下に向けた両手
で交互にペダルを踏む真似。

自動車 円まハンドルめ操作する身振。

忍ぶ 「こらえる」と同じ手まね。

芝居 「演劇」と同じ手まね。

屢々 「時々」のと同じ手まね。しかし、
この人差指の運動の間を短くし度数を多くす
る。

支部 五指の指頭を集め合わせた両手を左
右にその指頭でつけ合わせ、左手をそのまま
残して、右手を前へ糸を引き出すように出し
てとめる。

自分自身（自分独り）「私」と人差指で自
分の鼻をさして、その人差指の指頭を胸につ
け、その指頭で胸を上へすり上げて、自然に
指を離して、前に出す。

資本 商い——初める——金銭。但し、この
「金銭」は右胸脇で、積み重ねるように下か
ら上げて行く。

次男 第二——生れる——男性（中指）

島 左手の掌を下向け、五指をまるく彎曲
して、それを島として、一方上向けた右手
の掌を海面として、左手の周囲を巡ぐらせ
る。

姉妹 「兄弟」と同じ要領で両手の薬指を
胸の前で平行にならべ一方を少し下げる。

しまった 下手——残念（遺憾）

自慣 鼻頭を五指でつまむようにして、そ
のまま手を前へ引き出す。鼻を高くすること
事務 左手肘を机につけた姿態をして、そ